帝鑑

越後選

序

農夫耕し芸れる和歌
のもの葉紙に
古ふるし物語葉
歌ものを歌集に
拾ひ集めり
たるものなり

東洋文庫

昔し撰しくさゝれ小
他と撰み名清書ぬ
今趣法さ候はしめ
如一して此道の尊し
んとすと歎し肩
猶筆とり題を宣季
書はし帛紙あ

画しと説し予
はさこのとし清五月
東時安佐述

享保巳酉歳旦

元日や物久敷き御初烏帽子　超波

梅と共に咲くや月知る春　貞佐

去の日の標注補ひ代終て　〃

解てうぐひす　松大工　超

紫と赤と西ふ春の月　〃

第五枯て雪仏花掃く　貞

南仏ハ天竺ノ人ノ作ル由板ヘ
宿所見ヲ付テ名毛振琴　超
古事ニ曰ク伊勢ノ
今ハ亡キ人ノ長枕　超　貞
伊勢物語ノ日ク
軍高ク鳴リ白濱　超
雲ハ落ハツノ階ヲ接シ納　貞
池田伊丹ノ酒ノ印風　超

華紀ハ人ニ
宮ノ雲ハ迷ハク　超
社地ノ花石等ヲ書ス　貞
陽ニ茶ノ蔵ハレ　超
去風ハ南ノ
舟岩ニ白ハ
ハレ人ハ一本　貞
五貫ニ前歯ト上　貞

叶ふと六十六部ふたり一つ　超
精をつかれ腰に孫る猿　貞
徳ひ[illegible]ふと玄関の西へ　超
秋と常ふ鎌の寸ふり　貞
四川の茂解けし月う洩　超
九曜うやく天巌寺猿　貞
比叡の明ん[illegible]　超
殿乃お人と信ふ長持　貞

国ふ言ふふ[illegible]の土
真彩の[illegible]ん[illegible]が衣屋　超
ぶつまけて出ふを鼓猫の[illegible]　貞
東ふ嶮岳ふる[illegible]
形明乃[illegible]ふ[illegible]　超
ふ[illegible]を[illegible]の[illegible]　熟筆

十月を小春の天気木の葉散
ぬるをとめるこむしたゝみ涼
ひとりきゝ[illegible]
[illegible]て蔦紅葉

貞

夢拙の勝の結草寒き
きのふを回し勝の居所　文岩
伏近習の子曰寄せて　文十
木綿[illegible]く[illegible]やう[illegible]後　湖十
十三夜勝うけの系図い貴牛　永機
さわらし金色し水を見る秋　超

超波

岩

この紅花菊ふけをはらひて　岩
振り出すと　振りて　永
はらひ捨てる金の供素　裸て　湖
笠をぬいでやかるいりてこい　文
漕ぎけてとれの鯉うまの鯉　超
引あて踏のべ　兄弟の　臑　湖
人見をふ南ひて　住し　法令　永
志　歩　隆　横町の　雨　岩

都　野　分　豆　香　の　人　の　家　在　文
取　ぬ　て　て　角　仮　を　仕　る　超
き　て　ぶ　ぶ　花　の　絞　り　水　月　岩
熟　海　の　小　製　元　て　て　雪　文
研　し　様　て　古　原　て　宮　大　工　超
昔　て　公　家　の　系　素　者　り　永
道　て　め　人　て　て　の　草　絞　文
八　百　屋　て　代　く　本　口　岩

捨て為ん方も無く（今朝の霜　永
辛崎に一歩踏入る世の中　超
枝柿ふ侍らんの方もなく　岩
つまびらかに見もとり合さて　文
世のしるし箱根の関を見て戻る　超
破れ扇の風もとりあへず　秋永
四十名の十四五も金の月　文
焼米袋失ひ知らずゆく　岩

ふ矣と伯母ふ為て　永
ひかくふ筋を見せ　超
胴実ハ（那岡の角を野　岩
毛の絵ハく　培中の袖　永
春もまだ堀り残りて　久
計や稀の所ハ　執筆

若竹のなき人の家をしこゝろよけれ比
うつゑ八幡にまゐりて高場ハ坂
小ふもの坂をあれて和気柏乃
鶯の家なりし丸 楓名号をもし独の
貴ハふあそされ荒井の濁水い
ほくらぬふ吉祥寺 横ふりの蕎麦の
なかけて右ふ葉桜のことゝらと
是や中山の寺とて案内記していた 入

芽ぶける三門涼し 梅造 超波
橙の花葉鶏籠ある井戸 故一
蛤は貝盛り貝と煮てうつて 丶
古ての御代一形ふしの精 超
まけて又城ある山の夕月夜 丶
おいその近れ挽めれの影 故

秋風庵松吉に屋のそと　故
扇の芸をきける白露　超
一那を寄居千寿吉左つ　故
むすめの髪の結ひ方ひく　超
獨とけ四方を散貴清れて　故
法華の名鍛冶すりくらつ　超
雫うすれ月の夜ひかのこ風　故
三浦　三時の振舞とくべ　超

曾祖父の力ふるはかりあり　故
昼上下のいやお　正月　超
吸物もむすんで戻る花法ひ　故
法師みるすゝ相生原や　〃
法華花を通つめけまよの土蜘　超
織屋のむすこ額ちいさい　故
四つも姫いとけなれます　超
粥すゝすし亦ふくちかん　故

[illegible]大八聖天四の廉なる　超
[illegible]ゝ[illegible]ゝけ栗毛　故
老多の一[illegible]書[illegible]常　超
[illegible]し奈[illegible]や内　故
岐時の[illegible]ゝ稜父殿　超
拾[illegible]磯の[illegible]石丶
[illegible]六日の[illegible]の月　故
陽氏部[illegible]岩[illegible]大　超

尉う苦ハ枕[illegible]る竹の秀　故
人[illegible]ぬ高砂の松　超
[illegible]中間て[illegible]れ　故
師ハ肩衣て[illegible]ハ
大名の喫[illegible]て[illegible]し　超
[illegible]西の格　執筆

[illegible]の源氏のうらふのうら
[illegible]の[illegible]や[illegible]

[illegible]部和[illegible]際の[illegible]
[illegible]し海苔和帯源氏　衣竹
牛の[illegible]大[illegible]　青峨
崩れ[illegible]と[illegible]　泰里
[illegible]供の[illegible]　長水
[illegible]月　執筆

[illegible]波

汁の實の羮は秋は衣
古くまで柳の揺年 超
杉東平左敏と休む偶偶 泰
南無阿弥陀佛誰も唱へる 青
炭の火もうすくなりて 超
藻魚うさぎと義経へ積む 長
色おかぶ衣 袖搦深 青
出門徒家もうの家もし 衣

人月さへ歩き町の灯霜 長
煙斜に見れば公 泰
傍らの鶏出歩く月 衣
清茅の私の茹栗の夢 青
小使奴の乗る船 泰
流れ川の晴川の宿 超
傳子の有る言葉望めれて 長
天の濱へ捨れる 衣

[illegible]病死の数[illegible]家　青
母殿[illegible]膝[illegible]り乃水　泰
[illegible]戸の方[illegible]　超
星の秘[illegible]物を[illegible]　長
空極小[illegible]れし冠木門　衣
海瑞[illegible]　青
[illegible]月の[illegible]日　泰
[illegible]の[illegible]り[illegible]　超

乾[illegible]の青竜[illegible]　長
華孔[illegible]　鏡[illegible]　泰
[illegible]の宮　超
柿[illegible]木[illegible]の[illegible]　長
板[illegible]　衣
八日の[illegible]　青

点水四遥所
題目上下杜

晴嶺や飛おりてなる八枝　超波
多代の色の市を切る松　松下
三日月の始て水ちりつる　青壇
大文字賞の時しさ　超
春松の幸く道の彩ア成る　松
磐舟杜芦ぬ老天　青

雞乃汁是糖て煎れり　青
六角堂まゐりの所用　松
親母の子も機嫌日に日に悪く　超
孤人而乃仰山かゑ　青
貴葉果市ゑ行ける　松
用分買て白粉とい　超
きの風帝に時雨て貴船川　青
紅葉切れ道の出られし　松

名残ゆゑ白木下駄を病や　超
勝手夜ふ去れば青白干し　青
陣法乃花無法きうり　松
山葵の入ふいと用とのる　超
笑い人金也ふゑ　青
はれ祭へ方ゑ強製　松
題ふ集ゑ別ゑ　超
ぎうて叶ぬ法華乃開帳　青

嵐めふ都さうと来て　松
お坂の時の世に都や　超
青葉を立命うと妹背く　青
さてもうこと陽を焼る　松
さんさの中ふ朝霧とうれひ　超
老ふ行るの立前うハめし　青
市辺に夢の中村の秋の月　松
まぶ形ふうめ小刀の袖

無朝の鼻血八升ふはきれて　青
婦女子の　おはしう森る　超
紙の煙ふ発仙科と貴ひふ　松
第乃回しや清黄も咲　青
さんれ第物蜜ふれうまけも所　超
人の巻ふ行去のはけかれ　執筆

二口とゝ[illegible]の[illegible]わしゝてしかの
[illegible]る[illegible]賞[illegible]
何人の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

刺[illegible]布[illegible]八[illegible]寶船　超波一
旭[illegible]門松の[illegible]　里郷
[illegible]二里の[illegible]　圓推
[illegible]　宗之
[illegible]　永機
[illegible]　塾筆

こゝ烟町家をかれて時を帰　里
堀をしてめ[illegible]岡さ[illegible]より　超
よの中よ絶行乃外さま[illegible]掃ひ　宗
彼岸乃入地自撰さ[illegible]　円
門前をゝ[illegible]る[illegible]　永
花見の[illegible]幕乃付[illegible]　宗
一笑さ[illegible]家[illegible]　円
孫小つ[illegible]ぬ[illegible]　永

孤小が[illegible]乃衣へ這ひ上り　超
平家と[illegible]れん　里
朔小月[illegible]　円
[illegible]の[illegible]　宗
麻衣袖[illegible]つの　里
近江乃[illegible]　超
見部[illegible]　宗
[illegible]の[illegible]　円

和国八大寺巡礼記　超
やうやう着くまゝに制髮　里
出立して義空　円
寺に茶の法　知行の事　超
楊梅八月　里
後又一長屋明く　宗
高人小二十四時の長屋　円
是より和泉の市制　里

人賣の寺に来て拾ふん　宗
名所絵の船　荷物　円
金殺一安宿の酒　里
やうやう小のよりの立て　超
盗し餓鬼に茶菓の花　宗
月小蝶の舞ふかゝる　執筆

書の時すぎて細川人のみちをと
ゝまれし事はいまはのかぜにあるを
千年の昭は月を送りてあるや
言葉をかけて国のかしこきを絶えしを
陰に秋風いせのうちのあるを
時雨の中にふる形や
とゝまんは花の名をも

超渡

秋の風登山にかゝるとりの
赤情緒乃績くその勢　探香
とゝまる花をゝと見られて　青峨
いつの言葉に二ヶ村乃秋　超
菱金比上一羽織とゝまるし　探
寂てあるの日歴とゝまつのも　青

金沢角乃西ノ見ヶ浦次乃二階ノ欄干ノ揚ル　探　超
此市ヶ谷ノ梅梅頭伊丹ノ青
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
新緑の底ハ輝くもの秋　探
遠中の光しるの葉もかし　青
くれぬ伽羅盗むや小さき蝶　超
孤り　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　一　貼　探

ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　青
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
此ノ当ハ花ハ為ノ鶴ノ毛ノ三入
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　探
此ノ際ノ花ノ前ノ蓬莱寺越
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　探
雪ノ山ノ山ノ頂乃月
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　青
桂樟三ノ角止ノ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　探
汁粉ノ椀大ノ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　探
春ノ雪ノ朝霧ノ
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　超
ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　探

紅葉や源氏物語ちらしけり　超

谷川の清音聞くや蔦の葉　青

こがらしに深山の秋の声ふかし　超

ちるもとくさ提てゐる桜　探

分散の雲か峯かはなの雪　青

先ちるか惜しい秋葉の上へ　超

山伏の髪ふきたてる十三夜　探

鈴音と坂を下る青

とゝの茶屋の長柄ちらけて　超

人のこゝろ秋の海日朔へ

一筆の奥の那智の奥　青

弱紙ぬるる花の瀬イ

棚くゝる見物の為　探

去風ふく秋の塗物の製斗

執筆

東坡を小松殿
後の人風雨の春を
[illegible]
[illegible]

猫の爪猫の猫やうちうを　超波

雪は姿を正月のゆれ　鳳翠

時を立かれ雛を沸捨て　長虹

十年[illegible]の松の若来　超

時物の[illegible]れる服て　玉兎　鳳

いさ海の[illegible]ふうれの中　長

秋の風ふきいそぐや稲妻を　超
汁の実晒すすいの汗未札　鳳
ゝとして引すがる犬　長
どこへ来るやらもの朝起　超
渡りとてきぬぎぬの鳥　鳳
咲たるひしの例の小雪柚　長
月のゐ行りすまたいう斗　貞佐
ひとつ水ものの吸も秋の夕　鳳

珠数提げ人のうつれる世村　超
咲くゝめすい皆木の惜く　貞
反吐踏て今新る花を指一　長
若宮の供の箒の掌　超
問て無苦の西の去れ暮　鳳
巫女の言る消し嶺　貞
綿うつと水通の京おれ　長
公変て深て星の赤ゝ　鳳

形ばかりの狐て出る　超
又西りとも分　主番　長
明し桃の花　貞
まぶ暮れ桜私の月　超
繁り是も子の提陶　鳳
五枚ちらしめけ系帳　長
ちらの布子湯盛ふ　超
ねのまつ在様の下出　貞

経世より公今と楽しむ唄念仏　長
蜀代事切れは侍様　鳳
一長屋結ふ系れてよいの和　超
辛紙しも侍高帽子瓦　長
花守の中やトふ古小袖　鳳
んすふ長ちいちいとあ　執筆

郁離子曰貂之智其出於
庶獸者乎豈獨獸哉人之
無知也亦不如之矣

上人食小筆毛のごとき百金花　超波
新城を屠る朝月口切るを　曉雨
ながめて稱ふ家外納めて　故一
閑札竹乃　鼓へるけ　超
遊ぶ者小手　椿と月のさ　曉
暑い秋ぶる　仏ぶる大あぶ　故

生ぬ根拵ふ超
るの蟲に通けて結曉
解手て成て其の言故
紫の国ふこゝん月額超
緋緞て解ふ若れ曉
いられて音に結る白彩故
綿摘の撰の音超
古敬の巳元一弁風曉

待若不朱の家具まる野の月故
江侍の疼うく切れ超
かり江場て音の花の言曉
侍ま不乃乃
去の色の角ふ結ふ夢の人故
門て的弱とまるなる宮超
うう今の子れて走る孝犬曉
弧拵子一太子一体故

照来て只湧山乃行明て　超

灸と湖し凡かゝる勘當　暁

我送ふ大路家の破れて　故

祈るや画乃至たりしん　超

雪の梅霰の底五位六位　暁

兄十年風乃隠れ者　故

遠篭人笠をかつる法の月　超

経もらうる見し暁の看経　暁

去年もし新坂ばし芽ふく原　故

揚すともめぬし無長生れ　超

テて有る京の役者乃神楽稽　暁

うつむけて並井ふ散る花　故

大柳樹霞乃忘れ前　超

帰先訳て見るゝ詞人乃去翁　執筆

岩山の木の梢南に隠れ出る
月を隠すと夫婦川の
夜月橋を人のゝ渡て
月見の客をもてなす人を称
称かるの婦城の名を
定家卿の詠を見るゝ

時雨ふる常磐の木のつゝみ小倉山　超波
秋ふかしもみぢ葉ゝ　和専
越後国小黒崎の馬の居眠て　百庵
ふ所の能と能し　超
の清き鎧の如きれの月　和
枯葉拾ひ集めて見る　百

戦秋や雲を出て鳴て和
鯉の背中へ条居て過ぬ和
寒さ来つて逆入る更衣百
おのれとしらぬ屏風と特超
屠蘇に用ふる酒で筋ぬ和
きのふの今日正月の来て百
元朝や初日なかの色超
雑煮に居のまたしら雲の来て和

鶏の毎日擬とすることハ百
嘴ながく二階へ上る春の人超
一同の寄ひかへ花盛和
風ふきて春の月百
きれぎれの雲の中ゆ大和撫超
寺藤が男姿ハ林しげるより和
汐蛤のかふはけて抽撰百
夏人の作ると冷けて乗る超

豆腐の湯を一夜沸きて　和
為るの音見　雪ふりて　百
神職いうまの音を　超
拾ふ　小蛸　和
いなふ　楽山の姿かな　百
東寺の彩井戸れ月
見殺ふ灯　配る音の梅　和
蛍責の　影をかくして　超

柴の戸小巻を下つる石の音　百
舟場を　極楽寺の物干　和
彫物の布をまれを　超
雨を　花のうちのく　百
月の風ふれの　和
人音を　蛙子の浮く　執筆

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五月雨や[illegible]の下　超波

[illegible]月[illegible]の花　羊素

竹[illegible]の[illegible]梅の[illegible]れて　逸志

[illegible]一遠[illegible]　超

夕月[illegible]　羊

[illegible]　逸

花さくと雪と降乃ちらさ　超
ちる猶し三人れ年　羊
筋遠小稚佛と筆ふして　逸
川中時ちかし時和とかし　超
鶴書成ちれと姫のも　羊
赤い緒と紅ちの乃ちら　逸
大ちと二ちと叶ぬ京上り　超
いまふ乃ちと来　羊

秋ち紅色ち四時ちち　逸
今夜の月乃賦ちと　超
蟹味噌のかちの花　羊
馬力と黒米小結へちり　逸
杜風と村雨と二人りちん　超
愛嬢様乃ちと貴　羊
若水ちあけちまの　逸
吉乃ちと松ちの葉丶

掃除人灯籠の苔洗ひて　羊
白雲の絶えしの幕　超
月出ずるまでの宵とはなれば
さまざまの盛物の盞　羊
夕部に干されてある器物　逸
中の姫の曼陀羅の手習　超
雑式屋の洗濯の盥の月　羊
初鰹と菖蒲の葉　羊

秋の夜の蝶の出居して　超
咲き小さき芙蓉小南宮　逸
時雨と桐の実の落ちる柄しら　羊
きつとなるいつの墓の定紋　超
外濠の蓮の花の香　逸
柳の枝の蜻蛉の羽ばたき　羊